

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 - II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 - III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 - IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 - V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 札幌市 】

1 実践テーマ	【I、III、V】
2 実施対象者	札幌市立旭小学校 5学年 50名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 体育、道徳 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目 標 (ねらい)	・子どもたちのオリンピック・パラリンピックへの理解を深めるとともに、「ふるさと札幌」を愛する心の育成を図る。 ・オリンピック・パラリンピックの理念を基盤として、他者との共生の思いをもちながら、生涯にわたって運動やスポーツに親しむ態度の育成を図る。
5 取組内容	平成30年2月21日(水)、どうぎんカーリングスタジアムにおいてカーリング体験を行った。また、元オリンピック選手の近江谷杏菜さんからの講話があり、バンクーバーオリンピックでの経験、競技人生を通じて得たものや、オリンピック・パラリンピックの価値についてお話をいただいた。 ○指導計画 [4時間扱い] [朝の会]数回 ・タイムリーに平昌冬季オリンピック大会の時期と重なったので朝の会等でオリンピックについて交流。 ・カーリングのルールややり方を知る。 [体育] 2時間 ・元オリンピック選手による講話を聴く。 ・カーリングの実技体験をする。 [道徳] 1 時間 ・この学習を通じて学んだことを振り返る。 ・講話や体験からオリンピックの価値を学ぶ。

《学習の様子》

○元オリンピック選手近江谷杏菜さんの講話

オリンピックやカーリング人生のお話をしていただいた。



○カーリング体験

10人グループに講師の方が1名ついてくださった。最初に基本的な用具の使い方を学習し、そのあとで氷の上を歩いてみた。初めて使う道具に子どもたちは大喜びだった。1時間ほど練習した後、最後に2つのチームに分かれてミニゲームをすることができた。



○感想(子どもたちの声)

- ・予想よりもストーンが重かったです。滑るのも難しかったです。
- ・ブラシでのスweepが難しかったです。しかし、短期間でも指導員の方々のおかげで上達することができました。
- ・オリンピックの講話の選手村の話や会場のセキュリティーなどの話がとても面白く、興味をもつことができました。
- ・オリンピックでは自分の全力を尽くすことがとても大切であるということを知りました。ほくも努力することを忘れずに頑張りたいです。
- ・今回、この施設があることを初めて知りました。また、機会があれば体験しに行きたいです。
- ・普段行うサッカーと比べて、違う楽しさがありました。



6 主な成果

事前学習として、オリンピック・パラリンピックの歴史や冬のスポーツの種類、カーリングのルールなどの学習をした。子どもたちはスキーについては比較的知っていたが、スキー以外の冬のスポーツにはあまりなじみがなかった。今回平昌オリンピックをきっかけにカーリングやスケート、スノーボードなどのスポーツを知ることができたこと、またその施設が札幌にたくさんあることを知るよい契機となった。子どもの感想の中には、施設に行ってみたい、スキー以外の冬のスポーツをもっと楽しみたいとの感想が多く、札幌を愛する心やスポーツに親しむ心を育てることにつながった。

当日は、普段お会いすることのできないアスリート、近江谷さんのお話に聞き入っていた。あきらめない心やチームワーク、選手村などのお話は興味深く、子どもの心に響いていた。「私もオリンピックを目標としたい。」という子もいて子どものやる気につながっていた。実際のカーリング体験ではたっぴりカーリングに浸ることができた。最初はうまくできず戸惑っていたが、ご指導によりどの子も

	ストーンを真っすぐに投げられるようになり、楽しいという声があちこちに広がっていた。ミニゲームまでできてとても満足できる体験であった。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	取組の内容に記載した通り。
8主な課題等	今回は、平昌オリンピック開催中というまさにタイムリーな時期の体験であったので子どもたちの興味関心が自然と高まっていた。来年以降も行う場合は札幌市の資料などを効果的に活用していく必要があると感じた。また、3年生の社会科札幌市の学習の中で、札幌市のスポーツ施設調べを行い体験につなげていくなど、効果的な位置付けの工夫の余地もある。
9来年度以降の実施予定	経費や講師の確保等、持続可能な仕組みづくりを検討している。